



その ざき とし こ
園崎寿子さん

(エクパット・ジャパン関西共同代表)



子ども買春や子どもへの虐待をなくすために

子ども買春を日本の中から変える

90年代初め、先進国の男性がタイやフィリピンなどアジアの国々で子どもを買春していることが国際的な問題となった。こうした子どもたちに対する性的虐待・性的搾取^{さくしゆ}をなくそうと「アジア観光における子ども買春根絶国際キャンペーン」が始まった。英語の頭文字をとって「ECPAT(エクパット)」と呼ばれ、ネットワークは30ヶ国に広がっている。

日本では92年に「エクパット・ジャパン関西」が設立された。森実さん(大阪教育大学教員)らとともに共同代表を務める園崎寿子さんは、「アジアの貧しい子どもたちのために何かをしようというのではなく、買春する男性を送り出している、いわば加害国としての日本を中から変えていこうというのが一貫した姿勢です」と話す。

子ども買春やポルノに「虐待」の視点がない

設立当時、園崎さんはアジアの貧困問題に関心を抱き、10年間の教師生活にピリオドを打ってフィリピン大学への留学を決めたところだった。大学の先輩である森さんに現地のNGOとの橋渡しを頼まれたのがエクパットとの出会いである。さまざまなNGOを訪ね歩き、活動のレベルの高さや取り組む人々の情熱に驚いた。

「被害を受けた子ども自身が声を挙げ、立ち上がっていきけることを重視したサポートを目の当たりにして感激しました」

アジアの貧困を解決するための支援活動を模索するための留学だったが、「日本人がやれることといえばお金を送ることぐらい。それよりも子ども買春の問題を通じて自分たちのあり方を変えようという森さんの考えに共感して、私自身もエクパットの活動を中心にするようになったのです」

地道な活動が功を奏して、99年に「児童買春・児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律」が成立、施

行された。「ひとつの成果ではありましたが、一方で子ども買春に対するとらえ方がまだまだゆるいことを痛感しました。日本で買春といえば少女の性非行というとらえ方をされています。児童ポルノも“わいせつ物”というとらえ方ばかりが問題にされ、大人が子どもを利用しているという、子どもへの虐待という本質が置き去りにされているのです。被害に遭った子どもへのフォローもできていません」

子どもの話を聴けるおとなに

性虐待はもちろん、子どもに対するあらゆる人権侵害をなくすためには、人々の意識を変えていく働きかけも欠かせない——。そう考えたエクパット・ジャパン関西は、2005年に「SAFEプログラム」を作成した。子ども自身が自分を守るためのスキルを身につける、イラストボード型の教材である。教師が行うことを原則としているのは、教師自身にも子どもが抱えるしんどさを目を向ける意識をもってほしいという思いからだ。「私たちは何よりもまず、子どもの話を聴けるおとなにならなくては」と園崎さんは力をこめる。

NGOの運営は決して楽ではない。しかし、ヒューライツ大阪の「国際人権教材奨励事業AWARD2006」に選ばれるなど、取り組みを支持する声は多い。

「エクパットで自分のものの見方が大きく変わりました」「この教材をひとりでも多くの教師や子どもたちに使ってもらい、いやな思いをしたら声を挙げてほしいんだよと伝えていくのが当面の目標です」と、園崎さんは言葉をしめくくった。

【事務局】〒540-0012 大阪市中央区谷町1-6-4
天満橋八千代ビル10階 オフィスオルタナティブ内
FAX : 06-4790-6250 E-mail : ecpatjk@nifty.com
ホームページ : <http://homepage3.nifty.com/ecpat/>